

令和5年度第5回釧路市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時	令和6年3月21日(木) 10:30~11:40
場所	釧路市交流プラザさいわい多目的ホール
出席委員	26名(うち代理出席2名) 欠席7名
事務局	5名
オブザーバー	2名 欠席1名

1 開会

2 議事

【協議事項】

(1) 令和6年度事業計画及び収支予算(案)について **資料1**、**資料2**

- ・事務局より説明
- ～質疑なし～

(2) 釧路市地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画の変更について

資料3

- ・事務局より説明
- ・釧路運輸支局 松田委員より補足説明

(松田委員)

- ・ 変更内容やスケジュールなどは、事前に事務局と調整してきています。利便増進計画につきましても、ここ何年かに渡り減便が行われてきていますが、それでもなお利便が確保されているのだという内容を反映していただきます。くしろバスさん、阿寒バスさんのバス路線にさらに変更等があったときには、どのような対応をしていくのか、あるいは利便の継続につながるのかということを見えていくということになります。
- ・ ただ、釧路市で再編実施計画を作っていた当時の現状とを比べると、利便増進計画のつくりの部分で緩和になっている部分があります。現状維持路線が数多く釧路市の計画には載っていますが、もしかすると事務局と協議会判断で、その記載を落とすことができるようになるかもしれないです。
- ・ その点の判断は、6月の協議会の場で最終的に協議していただくことにはなりますので、それまでには事務局と調整していき、案をお示しできればと考えております。

(秋里会長)

- ・ 松田委員からご説明いただいたとおり6月に向けて作業を急いでいくこととなります。今回の網形成計画が、公共交通計画という名称に変わりますし、再編実施計画

が利便増進計画に変わりまして、中身も一部追加していかなければならないということになります。

(岸副会長)

- ・ 松田委員に質問です。釧路市の公共交通網計画は計画年度が長かったからこのような対応をしなければならないという理解でよろしいですか。他の町は大体計画期間が終わって、次の計画を策定するのが丁度公共交通計画とするというタイミングなのかなと思っていました。

(松田委員)

- ・ 釧路市の計画期間 10 年間というのは他町村に比べて長いと思いますが、期間というよりは、計画作成が努力義務となっているとはいえ、どうしても補助金を受けている自治体にとっては、正直もうやらなければいけないという部分が発生しています。
- ・ この1年間、釧路管内の自治体でも新しい計画を年度の切り替えに合わせて、例えばアンケートですとか、住民の皆さんからの話を聞いた上で問題点を洗い出し、計画自体も見直ししていただいて、さらに補助連動化していただくというのが多かったです。
- ・ 釧路市の場合は、まずは補助の連動化の部分を整えていただくというところを作業していただくかというところで、事務局とは話をしておりました。

(岸副会長)

- ・ 公共交通計画という名前に変える場合、手続き上、網形成計画を廃止して、改めて公共交通計画を策定するという形になるのでしょうか。

(松田委員)

- ・ 名前を変えるということでも廃止、新規という扱いではありません。あくまで、現計画期間が令和8年度までとなっていますので。
- ・ なお、国交省の承認手続きはありません。この協議会で6月に整えて、国土交通大臣と総務大臣に報告いただいて終わりとなります。※フィーダー系統補助を受けて運行しようとする場合には、計画認定申請後、国土交通大臣の認定が必要となる。

【その他】

(1) 各種定期券の割引率変更等について 資料4

- ・ 事務局より説明
～質疑あり～

(吉田委員)

- ・ 私の娘が4月から高校に行くので、定期券を買うことになっています。色んな人から聞くのが、この『マイパ』と『とくとく』は何が違うのかとか、“通学” “みんな” “通勤” のどれを買ったらいいのだろうかとか、阿寒バスとくしろバス両方買わなけ

ればいけないのかとか。

- ・ ホームページを見ただけでは分からないところも多く、分かりやすい表示の仕方があれば、通勤も含めて、定期券購入者が増えてくるのかなと思いました。
- ・ カード決済をその場でできたらいいとか、携帯の画面で見せられたらいいとか、利便性向上がもっと進められれば、私も買いたいと思っています。
- ・ それから、この小さいバス時刻表が非常に見やすいと思います。その反面、この時刻情報がアプリの「もくいく」に連動していないことが多く、せっかく良いアプリがあるのだから、ぜひ改善いただきたいと思います。

(原委員)

- ・ 割引率の変更については様々な外的要因により諸経費が上がっている状況ですので、何とかそれを少しでも吸収したいということです。また、今までは回数券を買われたり、親御さんが送り迎えするケースも多かったものですから、そこを取り込むような計画で、1か月定期券を作りました。
- ・ 『マイパ』と『とくとく』の違いをご説明しますと、『マイパ』はくしろバスと阿寒バス共通で使える定期券となっています。範囲が旧釧路市と釧路町までで、全てこの1枚でバス利用できるものです。“通学”“みんな”“通勤”とありますが、通勤の定期券は企業の従業員が一定のバス利用がある場合に特別な契約を交わすことで、割引率が高いものとなっています。

(吉田委員)

- ・ 非常に分かりやすいご説明でしたので、それがホームページにもあればいいのかなと思いました。それから名前を『バス会社共通マイパ』『くしろバス専用とくとく』『企業専用マイパ』などにするのも良いと思います。
- ・ バス会社のホームページとはまた別で、釧路市のホームページや広報紙などでPRできると利用促進になるのかなと思います。

(秋里会長)

- ・ 何とか利用促進を図っていくには、市も含めて、より分かりやすい工夫を続けていった方がいいのかなというところだと思います。
- ・ かなり多くの方が『マイパ』や『とくとく定期券』を使っていますので、バス会社も色んな工夫をしていただければありがたいと思いますが、市のホームページの中でも、必要なお知らせが分かりやすく伝わるのは大事かなと思います。

(須田委員)

- ・ 補足ですが『マイパ』については両社共有です。『とくとく定期券』は『マイパ』と利用範囲が違いますが、マイパの範囲になりますと阿寒バスでも利用できる形になっていますので、よろしく願います。

(事務局)

- ・ もくいくのアプリについては、データを事業者からアプリの担当会社に連絡してい

ただき、変更ということになるとと思いますので、その頻度を上げるということが必要だと思います。今後はバス会社さんと相談していきたいと思います。

(2) 釧路都心部まちづくり（釧路駅高架に伴う都心部交通ネットワーク等）の状況について **資料5**

・青柳委員より説明

(青柳委員)

- ・ 私が所属している部署であります都心部まちづくり推進室は、鉄道高架を基本としたまちづくりを進めています。鉄道高架と街路事業、土地区画整理事業、これら社会基盤整備を行っています。

【資料1 ページ目】

- ・ 釧路市では、釧路都心部まちづくり計画を策定しています。平成30年度末に基本構想編、令和2年度末に事業構想編を策定して、目指すまちづくりを進めています。
- ・ RINK 釧路を掲げていまして、釧路都心部の Re・Innovation、再生ということで、これから人が集う交流と賑わいの拠点を作っていくことを掲げてまちづくりを進めています。
- ・ ゾーニングという考え方を載せていますが、釧路駅周辺をゲートウェイとしまして、人が主力となる賑わいの拠点化を目指しています。さらに下に、賑わいの交流増ということで、駅前広場、北大通、共栄新橋大通とその辺を玄関口とまちをつなぐ賑わい交流増を作っていくという目標を掲げて進めています。

【資料2 ページ目】

- ・ 都心部の交通ネットワークについての記載です。真ん中の共栄新橋大通の下辺り、ここが釧路駅になります。そして囲まれている都心部環状道路というのがありますが、これは鉄道高架が実現できれば、西側にあります、北中跨線橋、そして東側にあります旭跨線橋、これらを平面化することが可能です。
- ・ この都心部環状道路の整備を進めることによって、街中に通過交通の流入を抑制しましょうというのがひとつの考え方になっています。
- ・ さらに、駅よりも西側に市役所横通りがあり、さらに柳町公園大通と、この高架下道路の街路整備を進めて、南北の交流を図るというのもひとつです。
- ・ さらに、駅前の北大通。今は片側2車線の4車線化された道路であります。この交通量が非常に減っておりまして、ここをウォークブル化とって、歩行空間として憩い楽しめる空間にするというのも1つの目標として掲げています。
- ・ またさらに、現在のバスターミナルは駅の東側に位置しておりますが、それをさらに駅近くに設置して、公共交通の利便性向上を図ることを目的としております。

【資料3 ページ目】

- ・ 駅のアップになります。駅舎の近くに、高架下バスターミナルでJRの公共のバス

の乗り継ぎの利便性をさらによくすることと、さらに、左右に市役所横通りと柳橋公園大通の延伸・新設をし、それ以外にも細い道路の計画をしておりますが、この辺の詳細についてはこれからとなっております。

【資料4 ページ目】

- ・ 鳥瞰図になります。高架化した駅の前に、色々な駅前広場など、交流スペースとなる空間イメージになります。民間施設や公共公益施設とありますが、ここにどのようなものが来るのかは決まっております。あくまでもイメージでご理解ください。

【資料5 ページ目】

- ・ 最後に公共交通マップを付けております。今のバスの路線図です。
- ・ 駅を出発して釧路町のイオンに行く路線だとか、大楽毛に行く路線だとかは、現状、全て北大通、旭跨線橋を通過して、釧路町方面はそのまま真っすぐ行き、大楽毛方面には鉄北通を通過して、共栄大通を通過していくという路線になっています。
- ・ これが鉄道を高架し、バスターミナルも移動すると、共栄大通の方に真っすぐ行く路線の設定が可能となります。
- ・ 今後の路線の在り方、路線数、バスターミナルのバース数だとか、そういったものについても、いずれはこの公共交通活性化協議会で、皆さま方のご意見をいただきながら、将来的な交通について考え、議論させていただければと考えております。

～質疑なし～

【全体を通して】

(岸副会長)

- ・ 6月に向けて地域公共交通計画に則して改正する内容が今日承認されたので、年度明けに議論が活発化していくことと思います。
- ・ この間、書面協議でしたが、路線バスの廃線、減便の議案があって、賛成せざるを終わらない状況で、私としては前向きな賛成ではなくて、仕方がない賛成という形でコメントさせてもらいました。
- ・ これを機会に、この先、バス事業者さんで更なる減便の見込みについて、表立って議論をする必要はないでしょうが、協議会の事務局ともっと密接な関係で連絡を取り合いながら、その対策を早め早めに打てないものかなと思っていました。
- ・ 他の町でもバスの計画に携わっていますが、とある町で市民にしてみたら突然大幅な減便、廃止ということになり、大変なことがありました。もともと運転手が足りなくて厳しい状況だったというのが約1年間続いていて、バス事業者は何とかやりくりしていたのですが、結局は今残っている運転手に負担をかけてしまうということで、会社と協議をしてそうだったという話を聞いたことがあります。
- ・ くしろバスさん、阿寒バスさんの現状はよく分からないので何とも言えないのです

が、あまり見込みたくない話だと思えますが、将来的な展望というところで、この先どれくらいまで減便しそうだというところを我々が覚悟しておくべきなのかなというところは、この機会に議論をすべきじゃないかなと思っているところです。

- ・ もうひとつは、利用促進というよりは、もうこれぐらいの方々が利用してくれないとバス路線は維持できないというぐらいの危機感を持つべきじゃないかなと思っています。
- ・ サービスレベルを上げたとしても運賃を安くしたとしても、やはり自家用車を使っている人が中々バスに轉換しないというのが現実だというのは、みなさんも気づかれています。それではやはり公共交通が維持できないという状況になっている。
- ・ すると、供給側の話で言えば、バス事業者は運転手不足によって、今はこれぐらいのサービス提供しかできないという形の供給側のボリュームと、もうひとつは公共交通を維持していくためのバス事業者さんの採算性、それから社会的な、広い話でいうと環境問題などがあると思えます。もう一つは路線が残ることによって、いわゆる交通弱者が移動を確保できるという色んな見方があると思えます。
- ・ これができるためには、やはりこれぐらいの人たちが自家用車から公共交通に轉換しなきゃいけないという目標みたいなものを作っていないと、そろそろまずいのではないかという問題意識を持っています。
- ・ 到底出来もしない目標を掲げて、例えば自家用車から 50%轉換させるという話ではないと思えます。仮にそれが達成できたとしても、逆にバス事業者がそこまでのキャパシティを提供できるという状況ではありませんので。
- ・ では現実問題として、バス事業者さんが維持できるレベルと、もうひとつは公共交通が全体として維持していくための利用者数の分析とか試算があって、最後は目標値を作り、市民全体で頑張っていきましょうというところまでやっていくことが、3か月で議論はできないかと思えますが、今回の公共交通計画の改定のところで、そこも含めて議論ができればいいなと思っているところです。

(秋里会長)

- ・ 大変重要な話だと思えます。どこの町でも人手不足で減便されているので、止むを得ないという気持ちがありながらも、そこは早めに情報共有して、事務局側も皆さん方も含めて、ご意見をいただけるような形を作っていくということで、ひとつ大事なかなという風に思います。
- ・ 一方で、バス会社さんも当然必死になって、路線の維持、人の確保に頑張っているところだと思えます。それが中々叶わない見通しが出た中で、事務局とまた連絡をよりもっと密にしながら、早めから議論がスタートできれば有難いのかなと思っています。
- ・ そのうえで、岸副会長からも、本当の目標ではないけれども、多くの具体的な活動

を積み重ねていかなければ無くなってしまわないか、という危機感を共有していく必要があるのかなという大変、大事なご意見だという風に思います。

- ・ そういった意味では、地方都市にバス、公共交通はあって当たり前という時代から、大変厳しい環境になってきているということだと思いますので、そういった議論がみなさんからいただけるような形というのを協議会に中でできるように、準備していきたいと考えております。

(佐藤委員代理)

- ・ 公共交通の中でバスに限定されていますが、タクシーハイヤーさん含めてご苦労されていると思います。
- ・ 釧路の場合は、とくに観光のウェイトが大きいと思います。そういった意味では、釧路市の観光協会は民間組織ですが、その方も協議会のメンバーに入れて、広くご議論されてはと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

- ・ 釧路の通常の公共交通の利用のほか、観光面での利用ということも利用促進の一つにつながるという観点がございますので、こちらの方は事務局で検討させていただきます。

(秋里会長)

- ・ やはり来訪された方々が観光施設への行き方が分からないとか、色んな課題は当然あると思いますので、直接メンバーになっていくのかということは別にしても、そういった観点でご意見を集めていきながら、バス会社さんと共有していくというのは、非常に大事な視点かなと思います。

(松岡委員)

- ・ タクシー会社が抱えている問題を皆さんにお話しする機会が中々ないので、少しお時間いただければと思います。
- ・ 当社は阿寒町エリアで地域の足として、地域の方々が通院や買い物に行くときに利用されているタクシー会社です。阿寒湖温泉は別会社ですが、タクシー業を営んでおります。
- ・ バス会社さんと同じように、タクシー会社を取り巻く環境も同じで、ドライバーの確保が年々難しくなっております。それに伴い、現在、提供させていただいている営業日や営業時間などのサービスの水準を今後変更していかなければならない厳しい状況です。
- ・ 今後、地域の最後の足の部分を事業者だけで賄うのはやはり難しくなっていくんだろうなと考えておまして、できれば幅広い関係者の方のご意見やアドバイスを今後いただきながら、地域の足として頑張っていきたいと思っていますので、引き続き、よろしく願いいたします。

(秋里会長)

- ・ 地域にとっては大事な足でございますので、それにつきましては皆さん方からも、エリアの足の確保等について様々な工夫やご意見をお持ちの方がいましたら、ぜひこの協議会の場でも、直接会社の方でもご意見を寄せていただければと思います。
- ・ 公共交通という観点でいきますと、バス、鉄道、タクシーということも含めて、市民の方全体に必要なものと思いますので、この協議会の中でも、こういうご意見をぜひお寄せいただければと思います。

4 閉会

(秋里会長)

- ・ 以上を持ちまして、「令和5年度第5回釧路市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。